

第四版 はしがき

本書が出版されてから10年余の歳月を経た。これまで、適宜、改訂をしてきたが、今回、改めて全体を見直し、文章の訂正のほか、新規判例・法令を挿入した。また、記述不足のところを補うこともした。特に、国家緊急権に関しては、新たな知見をもとに、全面的に書き改めた。

21世紀に入り、どんな政治世界が作られるのか、不安を感じながらみてきた。最初の30年が世紀末への方向性を示すと思われる。この20年余の歩みは、民主主義が確立したとみられた国民国家においても、迷路を歩んでいる。立憲主義、法の支配、個人の尊厳という憲法の大義が、ポピュリストや戦争をいとわない為政者たちからの攻撃対象となり、権力の優位が金力支配と相まって、個人の自由な私的空間を壊している。また公共空間さえも自己の支配に置く現象が、顕在化している。近現代立憲主義が目指した政治社会は、現在、岐路に立たされている。

本書は、「法の賢慮」を獲得したいと願っている若き学徒たちに、現代文明の病理を診断し、その処方箋をそれぞれの仕方を書いて下さることを期待して発刊した。読者におかれては、初版の「はしがき」を読んで下されば、筆者の意図は理解できるであろう。

改訂にあたり、小林宇宙君（一橋大学大学院博士課程）には、原稿の整理をお願いした。また法律文化社の畑光氏は、献身的な仕事をされた。お二人の多大な労力に厚く御礼を申し上げる。

78回目の終戦記念日を前にして

2023年盛夏

湯河原の風来坊にて

加 藤 一 彦